

徳重の桜 いまむかし

(1) 扇川緑道の春

扇川は、徳重交差点から東に2kmあまり、緑区の東端に位置する大池を水源として西方へ流れ、徳重では要池の南で神沢川を合流、平手、相原郷を通過、名鉄鳴海駅の西、汐見橋の下流で天白川に合流する、長さ11.6kmに及び2級河川です。

近年は岸辺が緑道として整備され、毎年4月始めには、緑区ルネッサンスフォーラムによる散策会が催されます。

両岸の桜並木や、飛来する鳥たちを眺めながらのウォーキングは、すっかり徳重の春の風物詩となりました。

また、扇川を熊野前交差点から少し北に外れたところ、熊野社の表参道も、見事な桜並木となっています。植えられたのは伊勢湾台風以降のことですが、現在では、頭上を左右から覆う花のトンネルが、訪れる人の眼を楽しませてくれます。そのほか、要池や神沢池の堤など、徳重には桜の名所がいくつもあります。

「緑区散策マップ：扇川緑道コース」⁽¹⁾には扇川かいはいの桜名所始めみどころが詳しく紹介されています。是非地図を片手に散策してみてください。



扇川緑道の桜（平成24年4月7日 「扇川わいわいウォーク」にて）

(2) 江戸時代の徳重と「桜」

これらの桜は、いずれも近年になって植えられたものですが、江戸時代から、徳重地区は桜の名所として知られていたようです。

当時の徳重は、鳴海宿の庄屋下里（のちに下郷）家（屋号：千代倉）の支配地でした。

第4代当主下郷学海が添削を依頼した俳句の句稿の中に、次のような一文があります。⁽²⁾

徳重山の花をミ侍りて

桜花ちりにし外に とふ人を待つてこそ 咲も残らめ

ミる間に風のちらしければ

雲とみし花さへ空の くもる日ハちりてそ雪と あやまたれめる（添削部分略）

また、第二代当主で、芭蕉門下、鳴海六歌仙の一人として名高い下里知足の日記には、

十六日 晴天 御林に花見二行。了寂、伊右、左助、如意寺。

土産に涙を手折花見哉 吉親

（天和四年三月）

とあります。⁽³⁾



熊野社の山桜（平成25年4月7日 歴史散策会にて）

江戸時代、尾張藩の官林「御林」は熊野社付近・神の倉と黒石にありました。確定はできませんが、徳重と下里家のゆかりを考えると、これは「神ノ倉御林」かもしれません。

桜の花を見ながら、徳重が鳥鳴き花咲く山辺の里であった時代に、是非思いをはせてみてください。

参考文献：(1)「緑区散策マップ：扇川緑道コース」（緑区ルネッサンスフォーラム散策部会編、緑区まちづくり推進室発行）

(2) 下里学海句稿（東海能楽伝承会・寛文庫所蔵 成立年不詳 未刊原本より翻刻）

(3)「下里知足の文事の研究 第一部 日記篇 上」（森川昭著 和泉書院 平成25）p500

その他：「扇川グリーンマップ」（グリーンまっぶみどり作成、緑区まちづくり推進室発行 平成10）ほか